

平成26年度 第1回氷見市上下水道事業運営審議会会議録

開催日時 平成26年4月22日(火) 午前9時28分から11時20分
開催場所 氷見市役所401会議室

- (1) 開会
- (2) 建設農林部水産長あいさつ
- (3) 会長あいさつ
- (4) 委員紹介
- (5) 事務局職員紹介
- (6) 出席委員及び成立要件の確認
- (7) 会の運営方法について

以下の事務局提案について、委員の了承を得た。

- ・ 会議の公開、非公開について
会議はすべて公開とする。ただし、非公開に該当する事項の審議が発生した場合は、その都度、委員が協議し決定する。
- ・ 委員の席順について
会長を中心に、50音順に着席することとする。
- ・ 会議録公開の方法及び発言者名の公開、非公開について
会議録は公開とし、発言者名は非公開とする。
- ・ 会議の招集方法について
審議会条例6条に基づき、会長が招集する。
- ・ 会議録署名人について
議事録署名人は2名とし、1名は会長、もう1名は会長が指名することとし、今回は猶明委員に願います。
傍聴は、「先着順による傍聴」とし5名までとする。

- (8) 上下水道事業の概要について

上下水道事業の概要について、上下水道課長が説明する。また、対象エリア及び施設については、上水道、下水道の順に各担当が図面を使い説明する。

- (9) 平成25年度事業の決算概要及び主要事業について

- (10) 平成26年度事業の予算概要及び主要事業について

上下水道課が所管する、平成25年度事業の決算概要と主要事業及び平成26年度事業の予算概要と主要事業、経営状況等について、上水道、下水道の順に各担当が説明する。

(11) 質 疑 応 答

委 員：水道料金の収納率は、どれだけか。

事務局：最終的な収納率は 99.5%であり、年 4 回催告し、それでも納まらない場合は、給水停止する。

委 員：金額にするといくらか。どのようなケースか。

事務局：対象者は、ほぼ固定化されている。例えば、アパートの住民で転居した場合、滞納がそのままのものがある。一般住宅に住み続けている場合は、給水停止されると困るので、滞納が続くことは少ない。

委 員：コンビニ収納はしないのか。

事務局：まだ、行っていない。取り扱い手数料や納期後の取り扱い等に問題があり、取り扱いするまでになっていない。

委 員：水洗化率はどの程度か。

事務局：資料にあるとおり、約 89%である。

委 員：浄化槽の設置率が県内で一番高いとの説明があったが、これは下水道対象範囲が狭いということの意味すると考える。今後、下水道対象範囲を広げる計画はどのようになっているのか。

事務局：今現在は、範囲を拡大する計画はない。ただ、柳田地内に氷見伏木線を作っている。このエリアについては、今後は、住宅開発が進むと考え、認可の範囲を広げる計画はある。

委 員：上水道の配管と下水道の配管は、道路の同じところに敷設してあるのか。

事務局：町部では、ほぼ同じ経路を通っている。

委 員：配管の太さは、どの程度か。

事務局：上水道用で 150mm である。下水道用は 150mm から 200mm である。

委 員：道路を掘った場合、上水道用と下水道用の配管の区別は、つくのか。

事務局：水道は、地面から 60cm のところにテープがあり、目印となっている。下水道の場合は、マンホールがありわかるようになっている。また、下水道は自然流下のため深いところに敷設されている。

上水道は 1m20cm ほどの深さで、下水道は最低 1m20cm から始まって、深いところでは 8m から 9m の深さに埋まっている。上水道と下水道が 2 本並んで一緒に見えるということはほとんどない。

委 員：下水道事業は整備は公共下水道、農業集落排水、漁業集落排水

で、それぞれの省庁の予算で整備されたと思うが、今は補助がないのか。

事務局：建設費のみが補助対象となる。

委員：将来的に個々の施設に対して更新が必要な場合の補助はあるのか。

事務局：国土交通省にはあります。

事務局：ただし、国土交通省の事業は、国土交通省の施設しか補助対象とできない。農業集落排水の施設（農林水産省）に対して国土交通省の予算をいれることは考えにくい。

委員：上水道の老朽管更新事業において、平成25年度の実績では、6万円/mとなり、平成26年度予算分は9万円/mになるが、口径と材質による違いなのか。

事務局：地震に強い管など年々開発された改良されたものをもの使っている。よって、材料費による差と考えていただきたい。

委員：上水道と下水道では、使う管の材質が違うのか。

事務局：上水道は水圧が高いが、下水道は水圧が低い。よって、管の肉厚が違う。

委員：であれば、下水道の方が工事費は安くなるのか。

事務局：下水道は上水道に比べ材料費は安いですが、深く埋める必要があるので工事費が高くなる。

委員：老朽配管の更新は、水道メータまでか。

事務局：そのとおり。宅内については、個人が行う。

委員：給水管は、HIVP管なのか。

事務局：ポリエチレン管です。自由自在に曲がるので、漏水が発生しにくい。ただし、国道や県道は金属管（ステンレス管）を使わなければならないという条件がある。

委員：上田子浄水場の1号タンクの6,000tを空にしても大丈夫か。

事務局：空にする前に遠隔装置を新たに整備する。この装置により水量をコントロールし、流量調整をするので問題ない。

また、ピーク時に勘案するとタンクは、2基必要となる。

委員：下水道費のなかで、公債費の返済を除き、現状の収益だけを考えたら赤字ではない。結局、収益的収支は赤字ではないが、資本的収支が大赤字ということで、その部分を一般会計より補ってんしてもらっているということか。

事務局：下水道事業を拡大せず、現状維持と言うことからすれば、その

とおりが、耐震化等の今後を見据えいくと、この先の状況がつかめないところがある。

委員：今回の財務資料だけでは判断できない。もっとかみ砕いて、分かりやすい資料を提供していただきたい。

事務局：理解しやすい、予算・決算資料の作成を検討します。

委員：耐震化等危機管理の意識をもっと PR すべき。

県からの受水費が下がるのなら、料金を下げるべきとの要望が強くなってくると思う。しかし、この時は目先のことだけではなく、この先の改修工事や資金計画を考えて、料金を考える必要がある。まして、県との契約期間が3年から5年になるとすると、5年間は、審議会でも料金改定を考えないということになる。

(料金改定等を)判断するには、5年先を見据える必要がある。

委員：5年後までに耐用年数が切れるもの。改修工事、耐震化工事についても単年度ではなく、長期期間の投資額がわかる資料がないと判断できない。

事務局：次回、用意します。

委員：下水道の平成26年度歳入歳出予算資料にある前年度の数字は、予算なのか実績なのか。

事務局：予算である。

委員：予算と対比するより実績と対比した方が分かりやすい。

委員：市民への PR 等広報活動は、どのようにしているのか。

事務局：漏水関係の協力依頼は3カ月に1回広報ひみに出している。ただし、経営的なものは出していない。

水道週間の PR のほか下水道に関しては、ポスターや作文の募集や掲示などを行っている。

委員：市民にわかり易いものをお願いしたい。

(12) その他

事務局より、次回の予定等についての説明を行う。

(13) 閉会

以上